17日当院形成外科にて植皮術施行。本症例は陰茎絞扼症の本邦報告97例目にあたる。若干の文献的考察を加え報告した。

34. 千葉県こども病院における尿道下裂形成術

本間澄恵，長　雄一（千葉県こども）

千葉県こども病院における尿道下裂形成術のこれまでの手術統計，現状について報告した。症例は1989年から2001年に初回手術を施行した108例。年齢は0歳から13歳まで，平均3.6歳。外尿道口の位置で一番多かったのはpenoscrotalからmid-shaftにmeatusがありchordeeも強いような症例で最近ではYoke法を施行し，成功率は73％。また，mid-shaft meatusではOnlayを用い，成功率は78％であり，全体では成功率は73％であった。

35. 勃起不全に対する手術療法の経験

清水亮行，南出雅弘，柳　重行
（千葉労災）

当院では1992年以来，術前検査（DICC，NPTモニター等）で血管性勃起不全（ED）の要素があると診断した7例に，下腹壁動脈－深陰茎背静脈吻合術を行い，4例で良好な結果を得ている。クエン酸シルデナフィル（バイアグラ）の登場以来，ED治療の第一選択はその服用とするのが一般的だが，服用できない例や十分な効果の得られない例も少なくない。患者の強い希望がある場合，手術療法は一つの選択肢となりうると考えられた。

36. Sildenafilと血管拡張薬の相互作用

石原順就（上都賀総合）

摘出ラット血管標本を用い，ノルエピネフリンや高K溶液による収縮に対する種々の血管拡張薬の作用をsildenafil存在下および非存在下で比較した。sildenafil＋nitroglycerin，sildenafil＋nicorandil，sildenafil＋pinacidil，sildenafil＋nifedipineの組合せいずれもでNE収縮に対するmaximal responseの低下が見られ，これらの薬剤の併用が急激な血圧低下をもたらす可能性が考えられた。

37. 精巣上体腫瘤を形成した限局性結節性多発動脈炎の1例

小林洋二郎，北川憲一，岡野達弥
村山直人　（松戸市立）
秋草文四郎　（同・病理）

症例は65歳男性。既往歴，53歳左精巣上体結核にて左精巣摘出。現病歴，平成12年1月右陰嚢内の有痛性腫瘤に気付き6月26日当科初診した。精巣上体炎と診断し，抗生剤による加療をするも不変のため悪性疾患も否定できず11月7日単純精巣摘除術を施行した。病理診断は壊死性血管炎であり他臓器病変がないことより限局型結節性多発動脈炎と診断した。53歳時の摘出標本を再検したところ同様の病理所見であり異時性両側性と思われた。

38. 君津中央病院における精巣腫瘍の臨床的検討

松本精宏，渡部良夫，片海七郎
永嶌　薫　（君津中央）

君津中央病院における過去12年分33例の精巣腫瘍の集計をしたので報告する。その内訳はセミノーマ26例，非セミノーマ7例であり，非セミノーマの内訳は奇形腫3例，卵黄嚢腫3例，絨毛癌1例であった。33例中，死亡したものは3例であった。

39. 新生仔期に投与されたディエチルスティルベストロールはマウス血液精巣関門の発達を遅延させる

細井郁芳　（千大）
外山芳郎，湯浅茂樹
（同・形態形成学）

DESを新生仔マウスに投与した結果造精細胞の成熟遅延が認められた。また血液・精巣関門においても形態的及び機能的成熟遅延が認められた。本研究の結果よりDESは血液・精巣関門の成熟を遅らせその結果として造精細胞の分化に異常が生じたと推測される。

40. マウス培養細胞を用いたフタル酸エステル曝露による精巣関連遺伝子の変化

山崎多佳子（千大）

近年，内分泌撹乱物質による野生生物の生殖器の異常が幾つか報告されており，種の存続にもつながることから注目されている。今回は内分泌撹乱物質と思われるフタル酸エステルをマウス培養細胞（TM3；ライディッヒ細胞　TM4；セルトリ細胞）に曝露しマイクロアレイの手法を用いて遺伝子群の変化をみ，in vivoで起こっている現象と合わせて考察する。

現在は検体を集めている途中だが，エストロゲンレセプター，アンドロゲンレセプターの発現量をRT-PCRで確認した所，有意な差はみられず，レセプターを介さないフタル酸の作用点が存在することも考えられる。